

槐

かい

岡井省二創刊

令和4年7月号

令和四年七月一日発行 第二十一巻第七号 通巻第百三十三号 (毎月一回) 日発行
平成三年九月十八日第二種郵便物認可



春の山

高橋将夫

海面が星空となる
蛭烏賊
風神の子が回しをる
風車
待ちきれず回り出したる
風車
もんもんとして
黄心樹の勲る
夜

ルビコンを渡りきりたる蝶一頭
引力も斥力もある鳥の恋
知らぬなら知らぬで徹せ万愚節
鷹鳩と化し人類の進化止む
さざ波となる佐保姫の心電図
遠回りすればゆるやか春の山
どの道も頂上に出る春の山

日月抄

高橋将夫 推薦

一 碗 の 白 湯 に 解 け し 花 疲 れ	花 冷 え の 鉄 布 地 を 滑 り ゆ く	百 年 の 花 と 鼓 動 を 交 は し た り	斑 鳩 の 星 は 曼 荼 羅 佛 の 座	躑 躑 も ゆ 楽 し む 為 の 命 な り	筈 の こ の 世 を 知 ら ぬ 白 さ か な	さ く ら し べ 我 が 人 生 の 上 に 降 る	存 在 が 無 く な る 不 安 陽 炎 へ る
中 島 昌 子	橋 本 順 子	久 保 夢 女	出 利 葉 孝	阪 倉 孝 子	中 貞 子	井 上 静 子	中 西 厚 子

花片の宙から明日へ流れけり
阿部さちよ

春眠に願ひ預けて闇にゐる
柴田靖子

春ですな何度言つても飽きないよ
竹村 淳

室の花不幸を知らぬ不幸あり
星野昭子

手から手へ赤児を移す初節句
孫野秀子

芹を摘む浄土の水の流れかな
安野眞澄

逃げ水や玩具のバケツ持つ姉妹
大塚たきよ

龍宮の人魚のびのび春北斗
亀元悦子

子雀の瑞枝飛び交ふ大冒険
佐藤豊子

槐集

高橋将夫選

花曇り縁は自分で選べない

守口 中西 厚子

四月には四月の愁ひ訪れる
存在が無くなる不安陽炎へる

春陰やねぢれの位置にある二人
考へず悩まず生きて氷消ゆ

枚方 井上 静子

うららかや揃つてをりぬ口達者
さくらしべ我が人生の上に降る

雨あとの靴に花びら乳の色
子らの来て春日の匂ひ置いてゆく

夜櫻の音無き音を聞いてをる
筍のこの世を知らぬ白さかな

中 貞子

花種の袋染しき音したる
豌豆の花風に乗るキユーピット

アメリカの近しと思ふ花水木
夕ざくらこの世楽しきこと多し

夢殿へ風まぶしかり柿若葉

枚方 阪倉 孝子

虚と実のあはひ埋めるや花吹雪

躑躅もゆ榮しむ為の命なり

八重櫻こんな生きて嬉しかり

影抱きタンゴ踊りし夜のおぼろ

寂しさと潔さあり巢立かな

大阪 出利葉 孝

斑鳩の星は曼陀羅佛の座

空の碧はち切れさうな木の芽かな

能登半島春を啄む長い首

四月馬鹿国後島が手を振れり

沈丁の香に誘はれて迷路かな

竹原 久保 夢女

初花に雨の洗礼とはなりぬ

桜には桜の空がありにけり

百年の花と鼓動を交はしたり

猫に鈴付けた帰りよ春の月